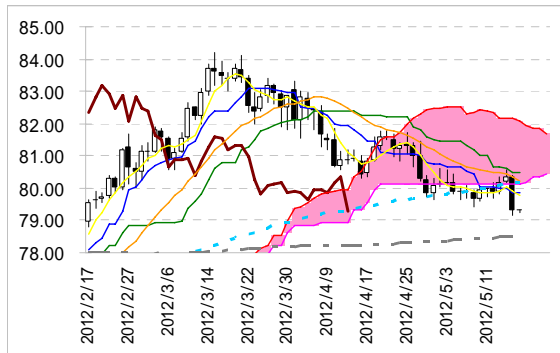
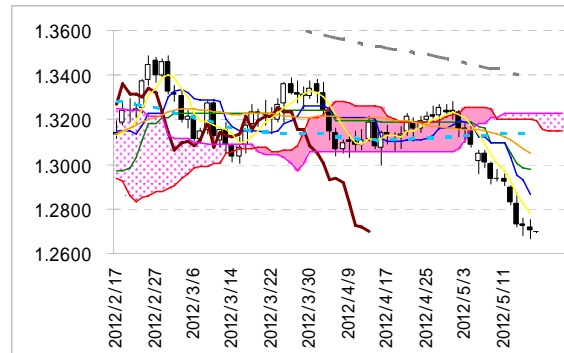


## ドル円の推移



## ユーロドルの推移



### 来週の展望 (予想レンジ ドル円 78.00-80.50 円 ユーロドル 1.2500-1.2850 ドル)

ユーロを中心としたリスク回避相場が続いている。ギリシャ再選挙が6月17日実施されることになった。IMFとの支援合意の破棄を主張する急進左派連合 (SYRIZA) が第1党になる勢いで躍進中。市場はギリシャのユーロ離脱への思惑を、より強く織り込んできた。銀行資本への懸念を抱えたスペインの国債が売られるなど、欧州売りが止まらない。ユーロドルは1.26ドル台と年初来安値水準まで売られ、ユーロ円も年初来安値をつけた1月以来の100円割れをうかがっている。積極的にリスクテイクする参加者が限られるため、強弱の均衡が定まりにくく、突っ込み気味にユーロが売られた局面で速度調整の急反発を挟むことは考えられ、やや荒っぽい上下動も想定できる。しかし、ユーロ相場が強く嫌う先行き不透明感に厚く包まれていることを背景に、ユーロの下げ基調は続くだろう。ユーロドルは年初来安値を更新し、2010年6月につけた安値1.18ドル後半を見据えた下落をたどることに、ユーロ円も年初来安値97.04円をうかがう格好で推移することになりそうだ。ギリシャの政治情勢など報道ヘッドラインに振られやすい状況は継続。センチメントの強弱に神経質となるなか、24日に独5月Ifo景況指数、ユーロ圏各国の5月PMI・速報値が発表となる。

ドルを取巻く環境は、16日公表のFOMC議事録で、景気鈍化の場合における追加緩和支持が前回の「2、3人」から「複数」のメンバーへ増加したことで、ややハト派寄りに傾いている。米経済指標の弱さに、よりドル売りで反応しやすくなった。ドル円は住宅販売(22日中古、23日新築)や、数字が振れやすい24日の耐久財受注ほか米指標結果をにらみつつ、下値を探る展開が先行しそう。対ユーロでドルが強含めば一定の支えにはなる。しかしユーロ円での円買いがより下押し圧力になりやすい状況。ドル円が、78円半ばで推移している200日移動平均線を試す展開も視野に入れておきたい。週末のG8を前に後退しているとされる本邦当局の円売り介入の期待感への今後の強弱の変化には注意したい。

### 今週の回顧

ギリシャ政局の混迷がユーロ売りを中心としたリスク回避を誘った。ギリシャは組閣失敗から再選挙が実施されることになり、IMFとの支援合意の破棄を主張する急進左派連合 (SYRIZA) の躍進が、ギリシャのユーロ離脱への思惑を高めた。リスク制限のためECBがギリシャの一部銀行融資を一時停止とのニュースも伝わり、ユーロドルは1.26ドル後半へ、ユーロ円は急速に円が買い戻されたこともあって100円半ばまで下落が進んだ。銀行資本に関する不安がくすぶるスペインの債務問題、欧州の緊縮策を主導してきたドイツで与党が地方選で敗北を喫したことも重しとなった。また、ドル円は16日公表のFOMC議事録がハト派寄りの内容だったことから伸び悩むなか、翌17日発表のフィラデルフィア連銀製造業景況指数や景気先行指数など、米指標が弱い結果になったことを嫌気。また、週末にG8を控え、本邦当局が円売り介入を行なう可能性が低いとの見方も浮上した。80円半ばまで買い(円売り)が先行していたものの、79円前半へ急落する不安定な動きだった。(了)